ガロ
1993 6
新人漫画大行進
巻頭カラー 三本義治
Jerry 秋山亜由子
長井勝一 南伸坊 渡辺和博 高野慎三
呉智英 やまだ紫 村上知彦 平口広美
みうらじゅん 山野一
ガロ名作劇場番外篇
花輪和一 鴨沢祐仁 近藤ようこ
丸尾末広「無抵抗都市」中篇
ガロビデオ第3・4弾完成記念
「KBB＋つめ隊・障害者はおまえだ!」
天願大介 浪貝朋幸
「ガロ脱特殊歌謡祭'92・ひさご」
根本敬 吉野達哉
四方田犬彦 上野昂志 あがた森魚
久住昌之 高杉弾 松沢呉一
550yen
DESIGN : KEN'ICHIRO HARAGUCHI

月刊漫画ガロ6月号目次

表紙イラスト●三本義治＋秋山亜由子＋Jerry　目次イラスト●知久寿焼

表紙・目次フォト●岩切等　表紙デザイン●原口健一郎

光山、…俺こないだな
テフロン加工のフライパン買うたんや
ほしたらな アレ全然こげつかへんねん
目玉焼きとか――
もっと早く買うとけばよかったわ〜〜 ホ・ン・マ
もっと面白い話はないのか
ハ〜〜
お前こんな話を知ってるか
電気グルーヴの石野卓球が旅先でラーメン喰っていたんだ。すると「武道館のステージに立ってた奴が、地べたでラーメン喰ってる！」と言われたそうだ。
でもその時卓球は思ったさ「いや地べたでラーメン喰ってる奴が、たまたま武道館のステージに立ったのだ…」と
金龍
俺も普段はこうして地べたでもつ焼きなどを喰ってる訳なんだよなぁ…
お前は喰うとるだけやろ
そうなんだよなぁ
ン？
なんだこの音
デンデンデンデン
ゲッ
なんや――

大行進
三本義治
デンデンデン
デンデンデン
ミスター谷口
サヨウナラ
バルボン
空手

新人漫画
うわぁ——
困った時のイジーストラドリン
デンデンデン
デンデンデン
ケロリ

踏み潰されて
しまえ
日影者!!

ものすごくパワーをもった奴らが
ものすごく魂を注入した作品、
それが今、青林堂編集部に
集結しようとしていたのだ
しかもその数3万作!!
トムとジェリーのアリンコの行進のメロディーで唄おう!

デンデンデンデン

明日はれるかなぁ
青林堂
でも通れな〜〜い

おしまい

特集

新人漫画大行進

アカイ
アカイ

アカジ
アカジ

青林堂

来たれ若人

会場では
ガロに
入隊を申し込む
新人漫画家が
殺到した。

新人漫画家受付

櫻画報・赤瀬川原平より

新人漫画大行進

巻頭の言葉

新しい才能と出会った時ほど嬉しいことはありません。創業者長井勝一が、ガロ創刊時より、新人の発掘こそをこの雑誌の大きな目的としてきたのも、その喜びの大きさがさせたことに違いありません。

そしてガロも、数多くの、かつての新人作家の方々により支えられてまいりました。

ガロは、新人の発掘において一つの役割を自覚

長井会長

し続けた様に思います。それは漫画に新たな可能性を拓き続けることです。
それまで漫画とは思われていなかった領域にも大胆に挑む作家こそを積極的に登用する、そのことが多彩な作家陣を得た、ガロ的といえる文化を創り出した源と思います。私たちが待っている作家は、必ずしも、現在思われている漫画家である必要はないのです。
そんな気持ちを込めて新人漫画特集を企画しました。そしてこれを見て、より大胆な作品を創る、明日の新人作家にも期待しています。

編集部

山中編集長

三本義治氏への50の質問

質問①出身地、誕生日、血液型を教えて下さい。

三本：北海道で、生まれは札幌でその後、苫小牧。四十四年二月八日生まれでO型です。

質問②どんな子供でした？

三本：さえない子供（笑）。

質問③何にあこがれてました？

三本：レスラーですね。やっぱり猪木。

質問④子供の頃はどんな漫画を読んでましたか？

三本：普通のみんなと同じようにジャンプとか一番多かったですね、コロコロコミックとか。

質問⑤その中で好きな漫画家とかいましたか？

三本：江口寿史さんとか好きでしたけどね。

質問⑥いつ頃から漫画家になろうと思っていましたか？

三本：いやー、あんまり思ってない（笑）、いつ頃って別にないですね。今、一番多分漫画家になろうと思っているっていうか（笑）、まだ漫画家って感じじゃないですから。

質問⑦一番初めに描いた漫画はどんな漫画でしたか？

三本：「サーキットの狼」に影響されて「サーキットの虎」とか、「ゲームセンターあらし」に影響されてルービックキューブの「キュービスト」って漫画ノートに描いてました。キューブで逆立ちしながらいろいろな形を作ったりしてなんか技を使うような。それとかプロレスの話が多かったですね、実は猪木には隠れた弟がいて覆面レスラーとして日本にやってきてどうのとか（笑）、アンドレを倒すとか闘いものが多かったですね。

質問⑧それは何歳ぐらいの時だったんですか？

三本：小学校高学年の時だったと思うんですけどね。

質問⑨実際にペンと原稿用紙に描いたのはいつ頃ですか？

三本：専門学校ぐらいの時ですね。

質問⑩何歳の時に上京したんですか？

三本：二十歳の時ですね、十八歳の時に北海道で美術の専門学校（産業デザイン科）に入って、二年間通ってからですから。

質問⑪これは若いうちにやっといたほうがいいことってありますか？

三本：お酒をいっぱい呑んでおいたほうがいいですよ（笑）。いつ身体が壊れて呑めなくなっちゃうか分からないから。

質問⑫今までどんな仕事をしましたか？

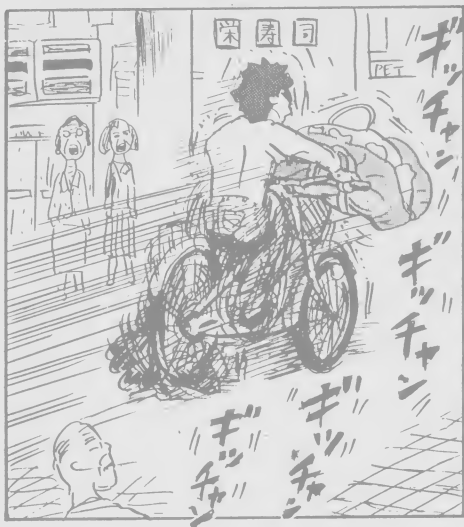
三本：最初こっちに来たばっかりの時は赤羽の工場で梱包の仕事を流れ作業でやってて、それからちょっとつらくなって会社勤めを始めて、それがテレビゲームのソフト会社で一年間勤めて。それで辞めて編集の仕事を一年間半くらいやって。半年くらい前に辞めて今、失業保険で生活している（笑）。

質問⑬後悔する事は多いですか？

三本：ああ、もうめちゃくちゃですね。全部ほとんど行動が後悔。今、言ったのも、もうちょっと何か考えておけば良かったって、絶対思うのに決まってるんですから（笑）。

質問⑭一日の暮らしぶりを簡単に教えて下さい。

街のエネルギーを吸いにパンクした自転車で
池袋を走り回る三本義治氏

髪の毛の短かい頃

三本：最近は細切れに寝ているって感じですね。漫画描いてて「あー」って感じになってくるとぐたーって横になったりフラフラして、で、朝方までボーッとして朝からちょっとお酒を呑んで(笑)、七時か八時位にちょっと寝て、起きてまた昼にちょっとだけ寝たりして(笑)。はっきりと無いですね、ぐちゃぐちゃ。

質問⑮入選した時はどう思いましたか？

三本：いやー、やっぱり凄いうれしかったですね。あんまり予想してなかったっていうか。

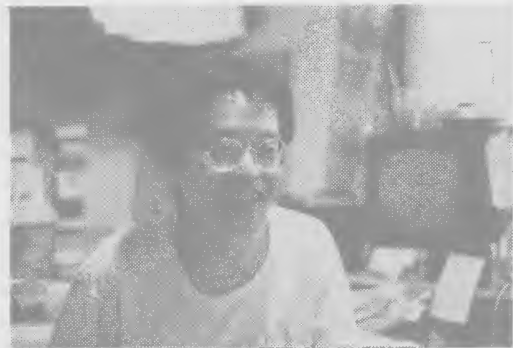
質問⑯ガロにはあの作品が初めてだったんですか？（「隣りの男」'91・8）

三本：密かに郵送で送ったんですけど何もなくそのまま返却されました（笑）。

質問⑰漫画のネタ作りで努力している事はありますか？

三本：わざと銭湯とかでへんなおやじがいたら隣に座ってずっと見たりとかしますね、でも努力っていうんじゃないかもしれないですけど（笑）。

質問⑱漫画、映画、小説、音楽で最も感動したのは何ですか？

三本：漫画では、やっぱり畑中純さん、「まんだら屋の良太」と「百八の恋」はもうバイブルのようなものです(笑)、あと「1、2の三四郎」。映画はあんまり詳しくはないんです(笑)、花くまさんというマンガ家さんにつれていかれるやつはだいたい面白い。小説は椎名誠さんと中島らもさん、…エッセイでは東海林さだおさん。本もあんまり言うほど読んでないです(笑)。音楽は一番最初が、Tシャツ着てるから言いたかないですけど(笑)、RC。なんでも結構聞いてます。

質問⑲定期購読している雑誌とかありますか？

三本：「週刊プロレス」、「紙のプロレス」、「Ｒｏｃｋｉ,ｎｏｎ」、「本の雑誌」です。

質問⑳ガロはいつ頃から読んでいたんですか？

三本：中三の時に遠藤みちろうのカセットブックで蛭子さんの漫画を見て、蛭子さんの漫画が読みたくって。宇宙人の話を描いていた頃だと思います。それからさかのぼって色々なかたを。

質問㉑ガロの作家で好きな人はいますか？

三本：やっぱりつげ（義春）さんは好きです。あとは森元暢之さん、勝又進さん、ユズキカズさん。

質問㉒人生何十年だと考えますか？

三本：ぼくは五十歳まで生きられればいいです。

質問㉓座右の銘はありますか？

三本：明るく素直に。

専門学校の進級制作作品（猪木への深い愛情が感じられる）

高校時代に作っていた「おすもうノート」より、この熱心さ、細かさには頭が下がる。

質問㉔好きな格闘家は誰ですか？

三本：みんな好きですね、特に猪木ですね。中学校の頃は部屋にポスターとかサインとか猪木関係がバーッと貼ってあって、アントン・マテ茶とか闘魂ガラナドリンクっていういかがわしいものも飲んでました。当然自分はレスラーになる為に生まれて来たと思ってましたから、新聞配達とか鉄アレイとか一日のメニューとか決めてやってたんですけど、当時デブだったのが、急にシェイプアップしちゃって目的が何なのか良く分かんなくなりました。学校のジャージにボロキレとか詰めて顔を猪木にしてダミー人形を作ったんですけど、これがよくできていて、一人でエルボーを打ち込んだり…あと、兄貴とずっと実戦はやっていたんですけど、ほとんど一方的にやられていたり、流血戦とかもあったんでつらかったです。学校ではリーグ戦をやって骨折する人が出るほど盛り上がっていたんですけど、今はもうみんな興味なさそうでさびしいです。僕も背も根性もないのでレスラーはもう諦めていますが。

質問㉕相撲も好きなようですけど今好きな力士は誰ですか？

三本：北勝関です。

質問㉖今一番興味のある事は何ですか？

三本：一番は落語ですね。

質問㉗今度、引っ越すとしたらどこに住みたいですか？

三本：やっぱり池袋がいいですね。四年も住んでいて、やっと街が使えるようになって来たって感じですね。

質問㉘上京して来てずっとここなんですよね。

三本：住むなら新宿か池袋どっちかだと思って、二三万円でっていったらここぐらいしかなかったんです。不動産屋も一件だけで、見たのもここ一件だけで決めちゃったんですよ。

質問㉙今までで一番困ったことってなんですか？

三本：特に思いつかないですね。

質問㉚しあわせを感じる時はどういう時ですか？

三本：お風呂あがりはいいですね、プロレスのビデオを見る時とか、あと落語のはじまる前の時とかいいですよね。

質問㉛今までにどんな病気をしましたか？

三本：胃を少し。

質問㉜一日何食ごはん食べてますか？

三本：二食です、ちゃんと自炊してます。

質問㉝好きな食べ物は何ですか？

三本：とり肉です。

質問㉞今日のうんこは固かったですか？

三本：今日はちょっと固かったですね。

質問㉟お酒はなにが好きですか？

三本：お酒はビール。

質問㊱床屋さんにはいつ行きますか？

三本：今日行こうと思っていたんですけどね、何か迷って通り過ぎちゃった(笑)。だいたいはもうこれ以上だめだってところまで伸びたらバアッてぼうずくらいに切っちゃうんですよ。

質問㊲芸人で好きな人はいますか？

三本：たけしですかね、やっぱり。落語家ではこの間見たのでは志らくが一番面白かったですね。

質問㊳舞台に上がる事というのは今までに何回かあったわけですけどこれからはどういった活動をする予定ですか？

初めて漫画（石川次郎氏と新大久保のサンバクラブをルポしたもの）が載った雑誌。こんなこともしてました。

専門学校時代に編集した同人誌「ゲロピュー」中に三本氏によるつげ義春氏、みうらじゅん氏の漫画のパロディが!!センスの良さが光る。

三本：つくづく人前に出るっていうのが向かないなと分かりましたからこれからはひかえるようになるかもしれませんね(笑)。…やっぱりだめですね。

質問㊴弾ける楽器は何ですか?

三本：ギターとウクレレ。

質問㊵うそつきですか?

三本：うそつきです(笑)。金を返しません(笑)。

質問㊶漫画を描くのに使っているペンと紙を教えて下さい。

三本：今、けっこういろいろと使ってるんですけど。主にスクールペンですね。紙は普通の市販の原稿用紙ですね。

質問㊷光山君は三本さんですか?

三本：違う方が多いんじゃないですかね。

質問㊸1枚仕上げるのに何時間くらいかかりますか?

三本：下書きが描いてあったら一日三、四枚位描けるんですけど、下書きからとなるとバラバラです。

質問㊹一日何時間くらい机にむかってますか?

三本：寝るのも今ここなんですよ、だから一日20時間くらい(笑)。

質問㊺締め切りの前は焦りますか?

三本：遅いからやっぱり焦りますね、全然予定みたいの立てられないんですよね、慣れている人だとあと何ページだから何時間でって予定たてられるじゃないですか。自分でこんなもんだって予定たててても絶対そのようにいかないんですよ(笑)。

質問㊻これからはどういったテーマで描いて行きたいですか?

三本：とにかくおもしろいものを描いて行きたいですね。

質問㊼今不満に思ってる事ってありますか?

三本：今、凄いしあわせな感じがするんですよ。後で振り返っても一番しあわせだったと思うくらい(笑)。なんかついてるって感じしますね。

質問㊽週に何回洗濯しますか?

三本：二週間に一度。ちょうどパンツが十三、四枚なんです。

質問㊾生活の知恵みたいのを教えてください。

三本：質屋を凄く活用してますね(笑)。いいんですよ一万五千円くらい借りて利子は千円くらいしか取られない。CDだと、ちょっと惜しいやつとかでも輸入盤屋とかは売っちゃうともう戻ってこない。値段の差も詳しい人がちゃんとつけるし。質屋だとおやじが枚数で数えて(笑)、一枚五百円くらいで引き取って、またどうしてもほしかったらまた取りにいけばいいし。でもそれ程せっぱつまってっていうか内田百閒じゃないですけど家に質に出すものがあるうちは全然大丈夫っていう気がしますし、最初行こうと思ったのも質屋っていうものを一度体験してみたいっていう感じでしたから。

質問㊿毎日の暮らしのうえで心掛けてる事ってありますか?

三本：らくちんに生きよう(笑)。

今日はどうもありがとうございました。

文責：編集部

仕事場訪問
三本義治氏の巻

三本氏のエネルギッシュな部屋。ここに三本漫画の秘密があるのか？

仕事に集中する三本氏。一体、彼の頭の中にはなにが蠢いているのだろうか？頭の上には洗濯もののパンツが蠢いている。

いつもこうやって寝ているんです。

三本氏の本棚

壁に飾られた花くまゆうさく氏、安彦麻理絵嬢、三本氏本人の絵。その下にはこの部屋を訪れた人達の写真。大越孝太郎氏、望月勝広氏達の顔が見える。是非この中に私達も入れてもらいたいものです。

三本義治氏は現在
パチンコクラブ（笠倉出版）
コミックゲーメスト（新声社）
マガジンWooo（イラスト）
（マガジン・マガジン）
で執筆中です。そちらも必見!!

※マスクプレゼントにたくさんのご応募ありがとうございました。当選は青森市の藤田智嗣さんに決定いたしました。おめでとうございます。

ガロ元編集者の証言❶

「〝実験の場〟として」

高野慎三（『北冬書房』主宰＋文筆家）

権藤晋（高野慎三）著・ほるぷ出版刊

『ガロ』が創刊されて間もなくして、白土三平さんは、誌上に次のような言葉を宣した。

「いままでは、新人マンガ家誕生の空白時代といってよかった。この世界に新風をそそぐうえでも、また既成のマンネリ・プロ作家に刺激を与える意味でも、そろそろ新人誕生による新陳代謝があってもよい時期である。（中略）既成雑誌には無いおのれの実験の場として、この『ガロ』を大いに利用していただきたい。」

当時は、まだ『ガロ』の一読者でしかなかった私は、この白土宣言を目にして、感銘をうけた。この頃、マンガ界を見渡してみて、白土さんのような考えを抱く人は皆無といってよかったからである。その後、『ガロ』の編集にたずさわるようになってからも、私は、白土さんのことばを肝に銘じたいと思った。

佐々木マキ、池上遼一、林静一さんらが目を見張るような新鮮な作品を発表しつづけたのも、彼らが、白土さんの情熱的な気持ちに応えようとした結果に違いない。『ガロ』は、白土さんの期待通りに〝実験の場〟としての役割を担っていった。この頃、マキさんや林さんをはじめとする若い作家に共通したのは、既成の概念の転倒、既成の価値観の破砕であった。いわば、〝実験の場〟に登場した作品群は、深い認識の産物であった、といいきっていいのかもしれない。

だが、実は、白土宣言に応えようとした若者はそう多くはなかった。六七、八年の段階でも、貸本マンガに顕著であった忍者ものや戦記もの、ハードボイルドもの等が寄せられていたのが実状である。それが、徐々にではあるが、変化をみせはじめた。つげ義春さんが、「海辺の叙景」「李さん一家」「オンドル小屋」等の名作を毎月のように発表しだしてからである。

仲佳子さんの作品は、その代表例といっていいだろうか。仲作品には、つげ義春、林静一さんらの強い影響が認められた。そして、そこには、仲さん独特の奔放なユーモアと大胆なコマ割りと、豊かな文学性が認められた。もし、仲さんが中断することなく作品を画きついでいれば、香り高い表現力を獲得したのは間違いない。

つげさんの「ねじ式」が評判になってからは、形態だけを真似した未消化の〝難解な〟投稿作品が目についたけれども、仲作品にみられるごとく、六九、七〇年を境に、〝つげ義春以後〟というべき現象があらわれたのは見逃せない。それはひと口にいってしまえば、文学性の濃厚な作品の出現と指摘できようか。鈴木翁二、安部慎一、古川益三さんらの登場は、如実にそのことを物語っていると思う。

ところで、私は、いまでも、渡二十四、淀川さんぽ、棚瀬哲夫、藤井勉といった若い人たちの作品群が忘れられない。仲佳子を含めて、この人たちが、その後も『ガロ』に作品を発表していれば、マンガ表現の可能性は、一歩も二歩も前進したであろうことは疑いえないからだ。